

令和5年度 第3回 学校運営協議会 報告

1. 日時 令和6年2月15日(木) 13:30~15:00

2. 出席者

(1) 学校運営協議会委員

【委員①】自治会副会長(地域コーディネーター)

【委員②】一般企業常務取締役(地域コーディネーター)

【委員③】卒業生保護者

【委員④】耳鼻科医師

(2) 校内教職員

校長 教頭 事務長 幼稚部主事 小学部主事 中学部主事 支援部主任

3. 会議次第

(1) 校長挨拶

(2) 学校経営自己評価報告

(3) 来年度の学校経営について

(4) 委員から感想・御意見(学校経営関係者評価をふまえて)

4. 協議等記録

○校長挨拶

今年度コロナ5類になり、今までにできなかった活動ができるようになった。体験活動と人とのかかわりを通して、いろいろ経験することができた。聞こえにくさ、マスク生活の大変さを実感することにもなった

創立百周年、自分らしさを発揮し、たくさんの方に見ていただき、多くの言葉をかけていただき、子ども達のいきいきした表情を見ることができた。

全校で41人、少人数の中で決まった人間関係の中ということが社会参加にマイナスになるのではと感じることもあったが、いろいろな方とのかかわりの中で自分を見つめ直す活動が大事だと感じた。

○学校経営自己評価

資料は、職員・保護者の評価から成果と課題をまとめたもの、

〈幼稚部〉

いきいき：あそびの中で異年齢の活動を行いながら子ども同士の活動を増やした。子ども同士のやり取りがふえた。教師の支援の方法については来年度も引き続き取り組んでいく。新任2人、職員が互いに教えあう、保護者にも子ども達にも安心感につながる。

わくわく：教員間のOJTを進めながら季節の行事、地域とのかかわりを大切に取り組んだ。季節の行事から言葉をはぐくむことを大切に進めてきた。今後については、互いにサポートしながら、客観的な評価(ビデオを撮るなど)も行えるとよい。

しなやか：交流ができるようになった。こばと幼稚園月1回、葵幼稚園2回、上島幼稚園。生活経験・あそびの経験が広がった。交流園の子ども達にも先生達にも、よい影響があった。医療機関、児童発達支援等との情報交換する機会を作ることができた。来年度も継続していきたい。幼稚部、親子でやることを大切にしている。先輩聾者とのかかわりも持てた。

〈小学部〉

いきいき：自分の考えを伝え合うことを大切に、伝え合いの約束を意識して伝えることができた。伝わっているかの確認ができるようになるとさらによい。

聴覚障害教育の経験が少ない教員が増えている。教員同士も普段から伝え合える関係づくりを行ってきた。

わくわく：読書力診断検査を実施し、授業に生かすことができた。外国籍等様々な児童が増加している。静岡、沼津の聴覚と合同でオンラインでの授業を取り入れた学年がある。来年度もそのような合同授業ができればと考えている。

しなやか：上島小学校交流2回、授業に参加。集団の中での活動を通して自分と向き合ういい経験に。外部機関と連携、支援会議を開いて必要な支援につなげることができた。小学部15名と少ないが、学年を超えた活動を増やした。

創立百周年、思いを伝えたいというめあてをもって取り組むことができた。

〈中学部〉

いきいき：それぞれのよさに目を向けていこうと取り組んだ。

専門性の高まり、創立百周年をきっかけに子ども達、教員一丸となって取り組んだ。たくさんのメッセージ、子ども達にも返している。行事を通していろいろなことを学べた。自分のこと、聴覚障害のこと、学校のことを知るよい行事になった

わくわく：ICTの活用タブレットの活用を積極的に行った。タブレット上での対話、自分の考えを出す、連絡事項は前日に配信など、ICTに触れる機会をつくった。子ども達は教員以上に使う力にだけている。今後も積極的に活用したい気持ちがあり、よい使い方を学んでほしい。タブレットよるトラブルを防ぎながら指導していきたい。

しなやか：生活経験の広がり、限られた集団の中での活動。校内ではできない活動をさせた。先輩の話、中学部だけでなく幼稚部の保護者にも聞いてもらえた。先輩の言葉は心に響く、自分事として受け止め、考えられる。先輩の道筋をたどることも大切と感じた。

卓球では、浜松市の大会にも参加し、上位を目指して活動している。大会を通しての経験も大切にしていきたい。地域の中学生とともに活動するいい機会となっている。

様々な関係機関と連携しながら子ども達、家庭支援を継続していく。

〈支援部〉

支援部は本校に在籍していない地域の難聴児の支援を行っている。

しなやか：在籍園在籍校や医療機関等と連携し、それぞれの実態、ニーズに合った支援を行うことができた。今年度は市教委と連携しことばの教室の先生方向けの研修会を実施した。ことばの教室の先生が、難聴を疑い受診を勧めてくれたことで、難聴が発見され補聴器装用を開始した児もいる。今後については、医療機関と情報交換ができる体制をつくっていきたい。

〈分掌評価〉

生徒指導課：人権感覚チェックシート、研修会、人権感覚の向上に取り組めた。防災としては、避難訓練等の時期を検討していきたい。

保健体育課：適切な時期に保健指導を行い、健康に関する理解が深まった。緊急時の初動体制のシミュレーション、効果があった。

自立活動課：コース別学習会を行い、職員が希望するテーマで深く学ぶことができた。子どもとかかわるときのチェックリストの分析を行い、評価が低かった項目について職員会議で伝達、徹底を図る。校内のOJT研修、後輩に伝える研修を早い時期に計画したい。

研修課：学部外部講師を招聘しての研修を行い、授業づくりについて学んだ。職員の対話に基づく研修を続けていきたい。

ICTについて、情報課と研修課で連携して進めた。児童生徒、教員ともに活用に慣れてきた。より効果的な活用についてはさらに研修が必要。唯一B評価、これまでよりは使うようになっているが、ICTならではの使い方にはまだまだ課題も残っており、今後更に進めたい。

教務課：廊下の図書コーナー、おすすめの本など、子ども達の身近に本がある環境をつくってきた。城北図書館の活用もできた。寄宿舍でも活用した。小中それぞれで活動している図書委員を来年度は一緒に活動したい。

寄宿舍：主体的に意見を言い合う、話し合い活動を取り入れた。舎職員もファシリテーションについて学びながら取り組んだ。生徒数が減少している中指導員が多いことも課題。目はかけても手を出しすぎない、支援を最小限にしていきたい。

○来年度の学校経営について

大筋は今年度と同じで。自立と社会参加が大きなキーワードになる。

目標具現化

いきいきわくわく活動してほしい。心がおれない、しなやかさを大事にしたい。

いきいき：お互いの良さを認め、安心安全な学校を目指す。子ども達の夢の実現。関係機関と連携して。

難聴、聴覚障害者が活躍する場が増えている。生活しにくい面もあるが自分らしく生きていく、聴覚障害ゆえになれない職業はない。夢をサポートできる学校にしたい。

人権感覚、来年度は「ひげの校長」を校内で上映も計画している。

自分の身は自分で守る、防災教育、安全教育に力を入れる。

タイムマネジメントできる教員集団づくり、退勤時刻についてのアンケート実施中。

わくわく：聴覚障害教育の専門性の向上、教員の入れ替わりの中で経験の少ない教員が増えている、団塊の世代の退職、生徒数減少に伴う教員数の減少、OJT、教えあう、が難しくなっているが・・・ICTを効果的に活用していく。地域の学校の子供達は本校の子供より使っている。高校生や社会に出て働くときになって困らないようにしたい。ICTに慣れていく、使いこなしていくことを目指していく。また、正しく使うことを身に着ける。使わないと怖さはわからない。情報を得る手段としてどのように活用していくかを検討していく。

読書活動による言語環境づくりも継続していく。

しなやか：人とのかかわりを大事に。交流席交流、学校間交流では、地域のもの・人を活用した交流を行う。乳幼児教室、通級、切れ目ない支援を行う。地域のセンター的役割を担い、本校に通っていない子への支援、子ども達がどこにいても困らないよう支援していく。

自他よいところ、得意なところを見つけ、支援していく。

○委員から・・・学校関係者評価もふまえて

欠席の運営協議会委員長からは書面でいただいているため、メール本文紹介。

委員①：地域コーディネーターとして、様々な場面で一緒に活動させてもらえた。ICTこれからは必要になる。英語も必要な時代になる。英語についてはどのように取り組んでいるのか？障害があると思うように表現できない部分もあると思うが・・・

中学部主事：リスニングやスピーキングも必要になっている。耳だけでなくデジタル教材を活用したり、テロップなど（英検でも）視覚的支援を活用している。全国学力調査でも、リスニングだけでなくスピーキングも行っている。

外国籍の子ども達にはタブレットでグーグル翻訳の活用も行っている。ICTは効果的。英語だけでなく様々な言語でも対応できる。

委員①：学校のある地域に生活していても、かかわることがなかった。地域の方とうまく交流できるとよいと思うが、学校も授業が強行スケジュールで機会が持ちにくい。

委員②：学区経営評価で次年度は100%にならなかった部分を重点的にやるのが大切。世の中もICT、電子化が進む。ICTの活用でコミュニケーションが取りやすくなっている反面、手話などの基礎的な部分がおろそかにならないように。基礎的な部分を大事にそれを補うICTであって欲しい。

委員③：保護者としてAB評価80%以上がほとんどなので、満足しているのではないかな？コロナでできなかった交流ができてきているのはよい。幼稚部では、幼少期に親子のかかわりが大切なので、よい。小学部では他の小学校との交流、多くの刺激がある。できるようになってよかった。中学部の創立百周年での経験、普通中では、代表しか経験できないこともこの学校では全員が経験できて、とても貴重な経験となっただろう。全校で、昔から本を読むことを進めている。それを大事にして、つながりを大切に、経験をことばにすることがいい。

委員④：職員評価、保護者評価一致しているところが多いが、わくわくの3つ保護者との隔たりは何か？。学部ごとの傾向などあるのか？。もし学部間の差があるのであれば、何

かヒントになるものがあるかも。

教頭：寄宿舍については、舎生が中学部3人しかいないため、回答しない保護者が多かったと思う。読書活動については、子どもの読書実態はさまざまで、保護者は自分の子どもを思い浮かべ評価している傾向がある（本来は学校の取り組みがどうかの評価）。学校の取り組みでなく、我が子視点での評価になっている方もいるため、評価にばらつきが出ていると思われる。

委員④：連携は大切だが、個人情報の取り扱いについて、本人・保護者がいない状況で医療情報が提供しにくい。

教頭：学校としても、保護者を通じてやり取りを行っているが、通院までに期間が空くこともあり、タイムリーな情報共有に課題を感じている。今後も連絡会などの機会を上手く設けていきたい。